

大会長講演

子育ち子育てエンパワメント WEB 活用の可能性

—実践知と科学知をつなぐ新しい展開—

安梅勅江 (筑波大学 医学医療系)

子育ちと子育てのエンパワメントとは何でしょう？「子育ちエンパワメント」とは、子どもの持っている「育つ力」を最大限引き出し、子どもを元気にすること、「子育てエンパワメント」とは、保護者の「子育て力」を最大限引き出し、保護者を元気にすることです。

子どもも保護者も、人間は一生成長していきます。その意味では、人間は一生「育つ力」のひとつである「子ども力」を発揮して生きています。すくすく育つ「子ども力」の特徴を把握し、活用することが求められます。

保育や教育など実践の中には、たくさんのすばらしい知恵が蓄積されています。その中から実践に生きる「根拠」を紡ぎ出すためには、「発達コホート研究」が欠かせません。発達コホート研究とは、育ちや生きざまを時間の経過に沿っていねいに追いかける研究方法のことです。そもそも「コホート」とは古代ローマ軍の隊列を意味する言葉です。前にどんどん進んでいくことから、時間に沿って前向きに追跡する研究の名前になりました。

科学技術振興機構社会技術開発センターでは、コホート研究および研究成果実装支援を行っています。計画型研究開発「脳科学と社会」においては、4年間をかけて5百人の0歳児と5歳児を追跡し、緻密な研究デザインと将来予測に基づくさまざまな指標の開発と妥当性の検証を行いました。そのほか、私たちは20年におよぶ赤ちゃんからお年寄りまで地域住民5千人のコホート研究、15年におよぶ全国保育園児のべ4万5千人が参加したコホート研究を継続しています。

そこでは、1)共感的なかかわり、たとえばアイコン

タクトや言葉かけ、ほめるなどの行動、2)規則的な睡眠などの生活リズム、3)情緒性が豊かで多様性に富んだ環境、4)家族へのサポート、5)家族の自信やストレス軽減、が将来の子どものすこやかな成長にポジティブな影響を与えることを明らかにしています。

子育ち子育てエンパワメントには、もちろん顔と顔を合わせたかかわりが必須です。一方でWEBの活用により、実践知を科学知につなげ、新しい知を生み出す可能性が生まれます。なぜなら、WEBは実践と研究の連結を強めるとともに、情報を双方向に効果的にやりとりすることで、組織力エンパワメントを醸成するからです。

子育ち子育て支援のプロは、WEB技術を用いることで、自分力エンパワメント self empowerment、仲間力エンパワメント peer empowerment、地域・組織力エンパワメント community empowerment の相乗効果をもたらすことができます。

人間が持っているすばらしい力を自然な形で最大限に引き出すエンパワメントの「方法」、「仕組み」や「環境」を明らかにし、よりよい支援に活かしていくことが強く期待されます。

—プロフィール—

安梅勅江 (あんめ・ときえ)

筑波大学医学医療系教授。1984年、東京大学医学部保健学科卒業。1989年、東京大学医学系研究科大学院博士課程修了。専門は発達保健学。近著に「乳幼児のための脳科学」(かもがわ出版)、「親から頼りにされる保育者の子育て支援 気になる子も、気になる親も一緒に保育」(黎明書房)等。日本保健福祉学会会長、国際保健福祉学会理事、日本子ども学会理事。

